



12

The Third Year

ります。これからの教育には、これら両方の視点を柔軟に統合していくことが求められていると思います。さて、当事者の学生たちは、現代社会のどの分野に関心があるのでしょうか。

学校では、これまでの延長にはない価値を生み出し、社会にウエルビーイングを広げていく教育が求められています。社会と子どもたちが共創するイノベーションや新しい市場開拓をする教育が含まれます。一方、課題解決は、持続可能性と安定に寄与するため、現在の社会の修正に留ま

でいる人を助けたいという思いです。その思いを形にするため、今年の3月にスタディツアーでウガンダに行くことを決めました。目的は2点。1点目は、自分の目でウガンダの現状を確かめるため。

来年度、私は新しい国際支援の企画に挑戦しようと考えています！ 高校時代、生理で困っているケニアの女の子たちの存在を知り、自分にできることがしたいと奮闘していました。当時、生理に関する活動を通して、強く感じたことがあります。それは、私もアフリカへ行き、理不尽なことでも苦しんでいる人を助けたいという思いです。その思いを形にするため、今年の3月にスタディツアーでウガンダに行くことを決めました。目的は2点。1点目は、自分の目でウガンダの現状を確かめるため。



○ほろ
・大学3年生

私が今問題視する社会課題は家庭経済や地域による子どもたちの課外活動の格差です。課外活動は子どもにとって自分のやりたいことを見つけ深めるものだとは思っています。また最近では大学進学な



○るーな
・高校1年生

2点目は帰国後、解決に向けて行動するため。今回、私は子ども兵だっただ方の社会復帰を支援する現場を見学する予定です。今までやってきたことと繋げられそうなことや、新しくゼロからスタートできることを見つけて、日本でアクションを起こしたいと思っています。行ってきます！





どもその生徒の課外活動は関わ
つてきています。しかしある調査
では「課外活動ができる場が地方
に少ない」「お金がかかる」など
の理由から地方と都市、低所得者
と高所得者で課外活動を行う子ど

も割合に格差が生まれています。
私はその中でも情報を自分から探
すことで地方でも盛んに課外活動
を行えています。やはり都市に
住んでいけば、とその限界を感じ
ることは多くあります。この問題
を解決するために、ソフトウェア
アプリケーションを通して学割
(学校学生生徒旅客運賃割引証)

を使いやすくし、住む地域を超え
て子どもたちが課外活動を行える
ようにすること、身近なことから
自分なりの課外活動をつくりその

継続をサポートすることの二つを
実現したいと思っています。



○ふりん
・高校2年生

私が気になっている社会課題は、
子どもの体力や運動能力の低下で
す。この課題は、私の将来の夢と
関連があります。文部科学省のサ
イトで調べてみると、小中学生の
体力テストの合計点がコロナ以前
と比べて低下していました。その
理由は、運動をしない子どもが増
加したことや朝食欠食、睡眠不足
などが考えられます。これらを解
決するためには、小さなうちから
体を動かす楽しさや、挑戦してで
きるようになった嬉しさなど、体

験を積み重ねていくと運動能力の
低下が解決すると思えました。ま
た、朝食欠食や睡眠不足なども小
さいうちから、食を食べることや寝
ることの大切さを教えて、毎日の習
慣にすることで少しでも解決でき
ると考えました。このように、何
ごとも小さなうちから習慣化する
ことが大切だと思います。

また、次年度も、人に流されず
自分が本当にやりたいものを追求
していきたいです。



○Kako
・高校2年生

私は「医療難民」に関心があり
ます。もともと医療に興味があり
医療ドラマや本を読んでいたの





すが、病院実習でドラマなどでは描かれない実際の現場を知りさらに興味を持ちました。

医療難民とは、「治療を受けたくても受けられない、適切な診療を受けられない」人々を指す言葉です。その原因には、「高齢になり免許を返納したが病院に行く手段がない、病院行きのバスが人手不足で廃止になってしまった」など、様々な問題があります。医療は人が健康に生きるために必要不可欠であり、誰もが平等に受けられることができるはず。しかしそうでないのが日本の現状です。この問題を解決するには遠隔医療実施の増加や法制度を変える必要があります。私たちにできることは、事実を知り、情報の限界まで調べ

て「知る」ことだと思えます。今、実際に行動することは難しくても知識と情報を持つていることは大きなことだと思えます。今後正しい情報をその限界まで調べることを大切にしようと思えます。



○みのり
・高校2年生

みなさんは選挙に行きますか？私は昨年18歳になり、先日、市長選で初めての投票に行ってきました。初めての投票にワクワクしていた私は応援していた候補者の選挙ボランティアもしました。しかし、なんとその選挙の投票率は40%にも満たなかったのです。さらに日本の現状を見てみると国政選

挙でも、投票率は約50%です。みんなのリーダーが半数にも満たない人々によって決められていては多様な意見が反映されているとは言えません。だから、投票率を上げることは社会問題を解決する上でもとても重要だと思えます。そのため取り組みとして投票率の高いスウェーデンでは学校で模擬選挙をしたり、学校に候補者が演説に来たりしています。

私自身も市長選挙でのボランティアをきっかけに、地域のあらゆるところに市議会が関わっているということを知ることができました。来年は自分の住む地域の人たちとも交流をし、どう地域をよくできるかを考えていきたいと思えます。

